

教育福祉常任委員会議会報告会について

1 日時 令和元年5月28日（火） 午前10時00分から午前11時35分まで

2 場所 社会福祉法人いわき市社会福祉センター 5階 大会議室

3 参加者 いわき市議会教育福祉常任委員会

委員長 磯上 佐太彦

副委員長 木田 都城子

委員 柴野 美佳

西山 一美

大峯 英之

馬上 卓也

溝口 民子

坂本 稔

佐藤 和良

住民支え合い活動づくり事業関係者 20名

（第2層協議体：7名、第3層協議体：13名）

4 内容

(1) 第1部 議会報告会

いわき市議会2月定例会で審議した議案を市議会だよりにより説明

(2) 第2部 意見交換会（3班編成）

「住民支え合い活動づくり事業に係る担い手の確保について」をテーマにワークショップ形式により実施

5 意見交換会で発表された意見

- ・ 民生委員の方々を中心に情報の発信や連携を行う。また、女性の方々の繋がりから情報を広げていく。
- ・ 既存施設等の社会的な資本を起点として、集いの場等として利用する。
- ・ 見守り隊等のバックアップの役割を担っていただけるようなコンビニ、郵便局、宅配業者等の社会的な資本へも門戸を広げていく。
- ・ 機動力もあり、すでに地域活動に何十年も歴史のある消防団との連携を図っていく。

- ・ 役員が変わり、これからの引継ぎも含め、広い世代にどのように広げていくのが課題である。
- ・ FMいわき、広報いわき、地域の中でのチラシ、ビラ及びSNS等を活用した広報を実施し、事業について知ってもらう。誰が広報活動を行うのが課題である。
- ・ 実際に活動しているサポーターやサポートを受けた人の声を広報活動の内容として発信していく。
- ・ いわき市いきいきシニアボランティアポイント制度のボランティアポイントを活用している人も多いが、65歳以上という年齢制限があるので、若い人を取り込むには、その年齢制限を外してはどうか。
- ・ 学生ボランティアの参加を促すために、ラジオ体操のカードのようにポイントがつくようなボランティアカードのようなものを使用し、シニアボランティアポイントのようなポイント制度を活用する。
- ・ 小、中、高校生等、子どもの頃からの教育が必要である。
- ・ 組織を立ち上げる際のレクリエーションを行うなど、楽しめるような組織作りを行う。
- ・ 集いの場、老人クラブ、地域の行事、婦人会、お寺や神社の行事等と一緒に巻き込みながら活動を行う。
- ・ 回覧板等を利用し、支え合い活動自体を地区にコマーシャルする。実施していることに関心をもってもらう。
- ・ 支え合い活動づくり事業が難しいと思っている人が多いので、担い手になる人が必要性を実感できるような周知の仕方が必要である。
- ・ 元気な高齢者の集まれる場所を作っていく。
- ・ 近くに、気軽に集える場所を作る。
- ・ 隣近所にどういった人が住んでいるのか等、地区の情報を知っていくことが大事である。
- ・ 青年会の復活やリーダー教育を行う。
- ・ 情報の共有、周知、及び世代交代のために養成講座を行う。